

fromワンとお取引頂きましたユーザーさまにお届けするニュースレター。

「1から」通信

発行部数 300部 平成23年春号(23号)

発刊者 (有)fromワン
川口市東川口1-16-6-2F
TEL 048-291-2240
FAX 048-291-2242
URL: <http://www.from1.jp>

山本 達也

取り扱い業務

FAX/コピー機/複合機
リサイクルトナー等サプライ品
業務用IP電話システム
電話工事/LAN工事
インターネット環境のコンサルティング

3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震から約1ヶ月が経ちました。

失われた多くの尊い命に、深い哀悼の意を表します。

岩手県や福島県にも弊社のお客様があり、現在避難されている様子です。

現地の方々に一秒でも早く平穏な生活がもたらされることを心より願います。

また今この瞬間も現場で、復興に、救援に尽力されている全ての人々に敬意を表し、感謝いたします。どうか安全と健康が保たれますように……。

復興に向けて動いている現地の様子も伝えられています。

私共も目を背けることなく、手を止めることなく、目の前の業務にあたって参ります。

(有)fromワン ニュースレター春号(23号)です。

お付き合い下さい。

電話加入権について



毎年この時期には、オフィスの移転や、スタッフの増員など環境の変化に伴って、電話回線の手続きなどご相談を受けることが多くなります。

その際には予めご理解頂いておいた方がスムーズに対応いただけるポイントがあります。

今回は、そのポイントをご説明します。ご参考下さい。

◆ 契約者(所有者)と利用者は、同一とは限らない。

電話回線の手続きをお考えの際に、留意頂きたいことがあります。
それは、契約者(所有者)と利用者は同一とは限らないということです。

例を挙げますね。

仮に私が今利用している電話回線を、引越しや解約などしたいと思います。

そこで私は、NTTに利用中の番号と住所、利用者(料金支払者)である私の名前を申し出ます。
ところがNTTは、「ご本人様でない」と手続きできません。」とのこと??

間違いなく、私の利用している番号で、私宛の請求でちゃんと料金も支払っているのに!!

どういうことでしょうか?

考えられるパターンとしては、

- ① 結婚前の妻が(旧姓)使用していた番号を、そのまま山本家の番号として使っている。
- ② 知人から必要なくなった番号を譲り受けて使っている。
- ③ あやしい業者から安く購入し、得たと思ってずっと使っていた。
などです。

そうです。お気づきの通り、その番号が発行された時の契約者(所有者)と、私(利用者)の間で
きちんと名義変更がされていないことが原因なんですね。

◆ 電話加入権は財産なんです。(一応・・・)

施設設置負担金(大げさな名前ですね)を支払って、NTTより正規に購入された電話加入権は、
一応相続財産なんです。

平成17年までは、約7万5千円、以降、約3万7千円もした加入権ですが、財産評価価値は
現在、1,500円~2,000円になっているようです。(ガクッ↘)

それでも資産である以上、いくら利用者が私で、お金を支払っているのが私でも、きちんと
名義変更がされていないと、契約者(所有者)以外からの申し出は拒否されてしまうんですね。

実は、会社間でこういう問題が発生することが多いのです。

- ・創業者の個人名で取得した回線で、既に創業者の方が亡くなっている場合。
- ・別会社で契約した回線を使っており、その会社は清算されてしまった。

など気づいた時には、名義変更もできず、譲渡も解約もできなくて困ってしまうことがあります。

もちろん、NTTも臨機応変に対処してくれる場合もありますが、心当たりのある方は一度正確な
名義の確認をされることをおすすめします。

いかがでしたか?今回は電話加入権についてでした。



おすすめ本



< 道は開ける >
著者： D・カーネギー
出版： 創元社

1955年の56年前の発刊にもかかわらず、どの書店でも必ずビジネス書のコーナー中央にドンと鎮座している古典とも言える本です。

本棚から発する重厚なオーラに、これまで手が出なかったのですが挑戦してみました。

過去、現在、未来を通じて人間の「煩悶」を克服するための指南書です。

数多ある自己啓発、ビジネス書の大半はこの本の亜流ではないか？

とさえ思えてきます。

本物の良書は、シンプルでありながら、私達読み手にも大きなエネルギーを要求してきます。

真剣に読み進めるには、おそらく読み手が自身の内面に問いかけながらページを進めざるを得ないからでしょう。

「答え」はすぐに忘れてしまいますが、読後、自分の中に「問い」として残るものがあり、それがいつか肝に落ちた時、自分に定着する。

そんな本が本当の良書かもしれませんね。是非。

【編集後記】

この数週間、怒りや憤りと共に少なからずどこか罪悪感にも似た気持ちがありました。しかし、こんな時だからこそ、眉をひそめてTVを観ているのではなく、気持ちを澄ませて今、ここにある目の前の時間や日常に丁寧に接してゆきたいと思います。

それは少なくとも、当然当たり前にあるはずだった、時間や日常を奪われた方々に共感することにもつながるのではないかと考えるからです。

原発、電力や経済見通しなど、不安定な状態が続きますが、被災者の方々はもとより、このレターをご覧の皆様、ご家族、関係される全ての皆様の安全と健康を心より祈念します。

私も先ずは、今年も力強く咲いてくれる満開の桜を楽しみに、元気を出してゆきます。

本号もお付き合いいただきありがとうございます。

次回も、夏号でお会いしましょう！！ それでは！！

